



# Canon EX

使用說明書



## ごあいさつ

このたびは、キャノン EX をお選びくださりまして、まことにありがとうございます。

キャノン EX は、最新の技術と創意をこらして、まとめあげたユニークな一眼レフカメラです。

性能、操作性、ともに抜群です。ご家庭はもとより、研究に、旅行に十分にご活用ください。

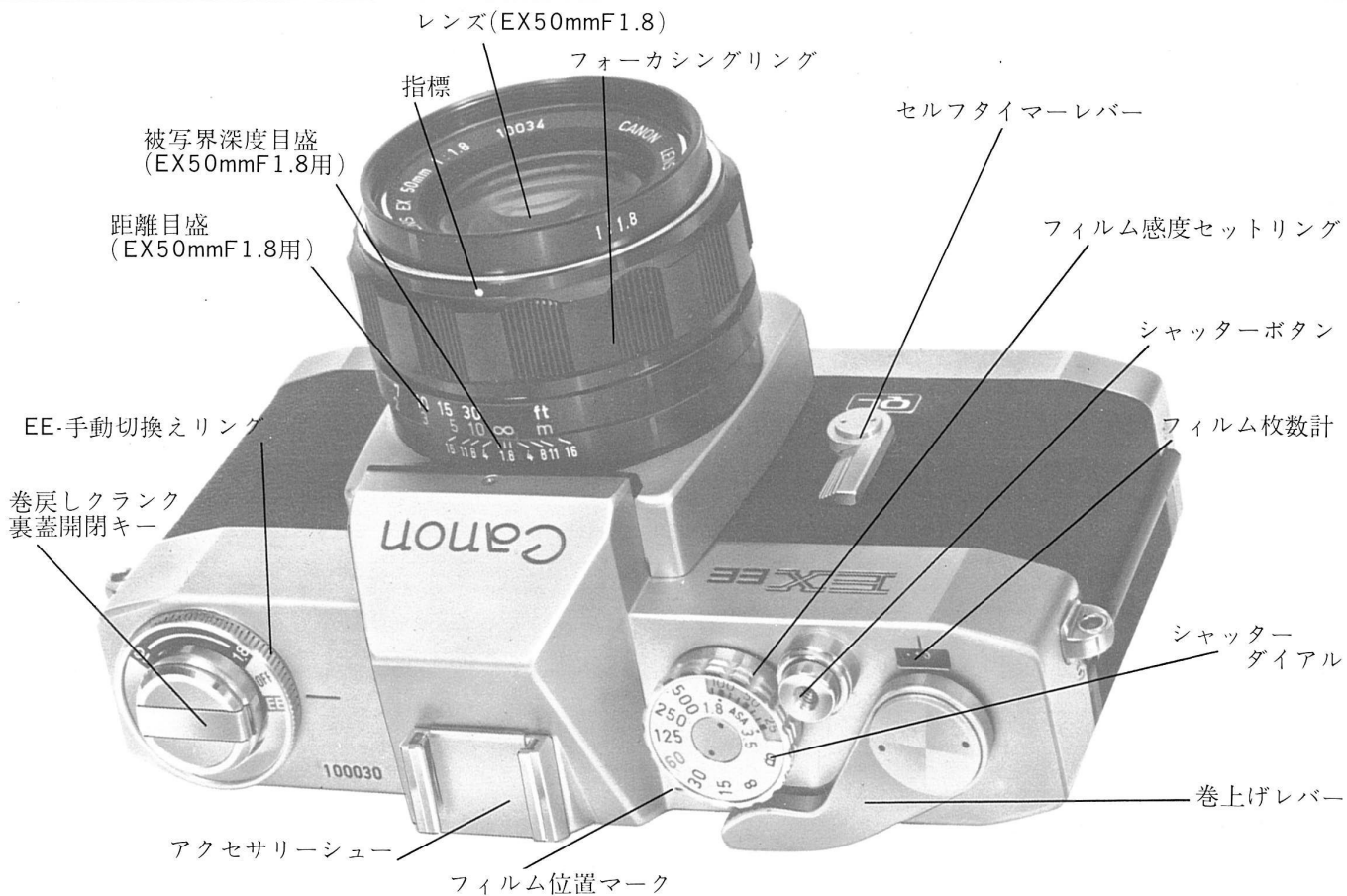
## ご使用のはじめに

本使用書は、簡単にお使い頂けるように内容を大きく二つに分けて編集してあります。

キャノン EX を、お手にして、順を追ってご覧ください。

使用書をご理解のうえ、ご使用になるのと、ならないのとでは、製品の寿命も大きくかわります。ですから必ず最終頁まで、丹念に熟読されるよう、お勧めいたします。

# 各 部 名 称



## キヤノンEXの主要性能

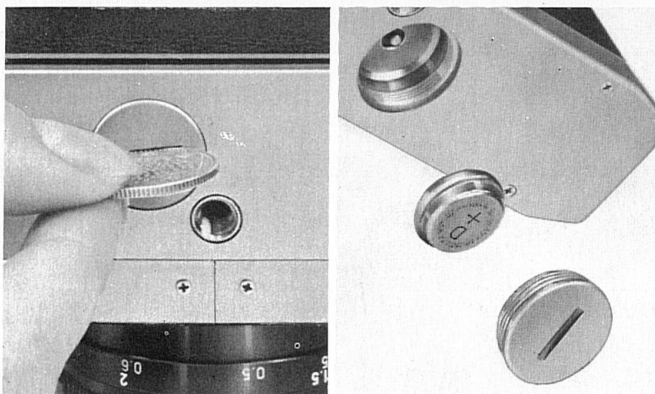
- 型** 式：35mm フィルム用 TTL 式 EE 一眼レフレックスカメラ
- レンズ** **ズ**：標準 EX 50mm F 1.8 (4群6枚構成)  
**画角**：46° **コーティング**：アンバー・パープル  
**広角**：EX 35mm F 3.5 (5群6枚構成) **画角**：64° **コーティング**：アンバー・パープル  
**望遠** EX95mm F3.5 (4群6枚構成)  
**画角**：26° **コーティング**：アンバー
- レンズ交換**：主光学系の後群(2群3枚)を残す前群交換式。
- ファインダー**：空中像式(マツト面をもたず明るく鮮明)／ペンタプリズム使用のアイレベル式／視度補正レンズにより視度補正可能／アングルファインダーA(旧称ウエストレベルビューワー2型)取付け可能／ファインダー内表示〈EE露出計指針、絞り目盛、露出過不足マーク〉／倍率 50mm時 0.9X
- 距離ミ** **ラ** **計**：プリズムスクリーン距離計内蔵。  
**一**：ノンショック クイックリターンミラー。
- シャッター** **一**：倍数系列 1/500～1/8 秒等間隔目盛B・X(1/60秒)1軸不回転ダイアル式フォーカルプレーンシャッター。

- EE露出機構**：シャッター優先式で絞りに連動する CdS EE 露出計内蔵。JIS H-D型 1.3V 水銀電池 1コ使用。
- EE一手動切換え**：EE-OFF-手動絞りの切換えリングにより手動絞り撮影可能。
- 測光範囲**：ASA 100 EV4.7 (F1.8 1/8秒)～EV 17 (F16 1/500秒) F 1.8 レンズで ASA 25～800, F 3.5 レンズで ASA 25～500の感光度をもつフィルムが使用可能。
- シンクロフラッシュ**：X接点。FP級、M級、MF級、スピードライトに同調可能。JIS B型ターミナル。
- 内蔵セルフタイマー**：シャッターボタンで始動。
- 巻上げレバー**：1作動 174° 回転レバー、小刻み巻上げ可能。
- フィルム装填**：キヤノンの開発による QL 機構を備えた簡易迅速装填方式 / 巻戻しクランクを引上げる裏蓋開閉式。
- フィルム枚数計**：自動復帰順算式。
- 大きさ・重量**：143x92x84mm/900gr (EX 50mm F1.8付)
- その他各種安全機構、アクセサリ完備。

# 目次

撮影の前に	5	レンズ交換の仕方	19
別封の水銀電池をカメラに入れましょう		被写界深度目盛	21
フィルムをつめてください		ファインダー	22
フィルムの感度を使用するレンズの明るさ		フィルム位置マーク	23
の数値に合わせます	6	水銀電池の種類と取扱い	23
シャッタースピードを選びます	7	フラッシュ撮影	24
EE—手動切換えリングをEEにセットしましょう		セルフタイマー撮影	25
写す対象〈被写体〉をファインダーの中で		赤外撮影	25
正しくとらえましょう	8	二重露出の仕方	26
ファインダー内のメーター指針の位置を		キヤノンフィルターのおすすめ	27
確かめてください		カメラの保存と手入れ	28
シャッターボタンを押します	9	アクセサリ	30
撮影の完了後	9		
フィルムの巻戻し			
バッテリーの点検	10		
フィルムの正しいつめ方	11		
フィルム感度のセット	12		
EE 撮影と手動絞り撮影	13		
シャッター	14		
絞りと露光量	15		
シャッターと絞りとミラーの関係	16		
EE 撮影の連動範囲	17		
連動範囲の表	18		

## 撮影の前に

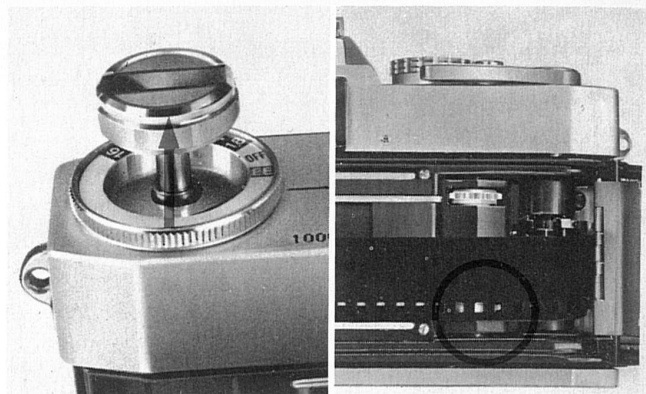


### 別封の水銀電池をカメラに入れましょう

- 1 電池室の蓋を、硬貨を使って左に回し、はずします。
- 2 蓋の裏に図示されているように、電池の方向を間違えないように入れ、蓋を閉じます。

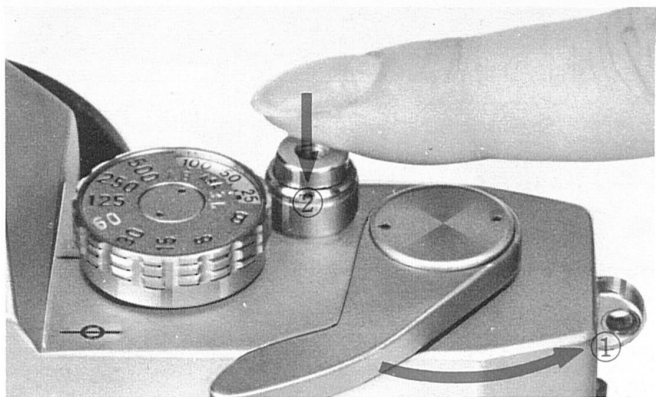
### ご注意

- 電池の接点<上下>を指先などで、汚さないように、汚れた場合は、乾いた布で拭き取ってください。
- 上下を逆にして入れないこと。



### フィルムをつめてください

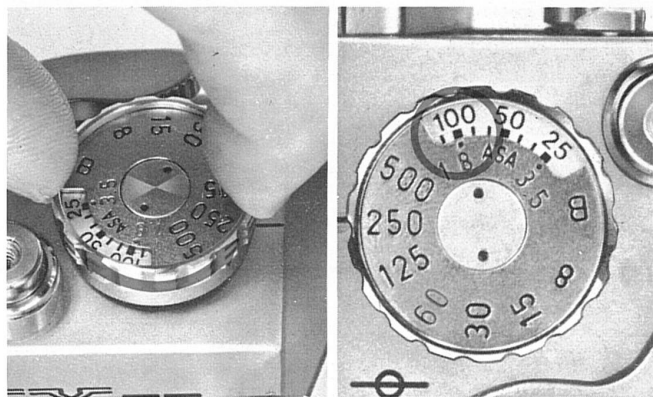
- 1 巻戻しクランクを引上げ、さらに強く引きます。
- 2 裏蓋がポンと開きます。フィルム室にフィルムを入れ、<軸が長くでている方を下に>
- 3 巻戻しクランクを元に戻します。
- 4 フィルムの先き<リーダー部分>を、赤マークの上に乗せます。裏蓋を半ば閉じると中蓋がフィルムを押えます。そこで小窓からフィルムが歯（スプロケット）に正しくかかっているかどうか確認します。
- 5 裏蓋を押しつけて閉じます。



**6** 巻上げレバーを巻上げ、シャッターを切る操作を3回繰返します。

\* この操作を空写しといい、フィルムがすでに光に感じてしまっている部分を、予め巻上げておく必要があるからです。

**7** フィルムカウンターのマークは、Sから0になり、次に巻上げると撮影可能な1枚目を表わす(・)に進みます。

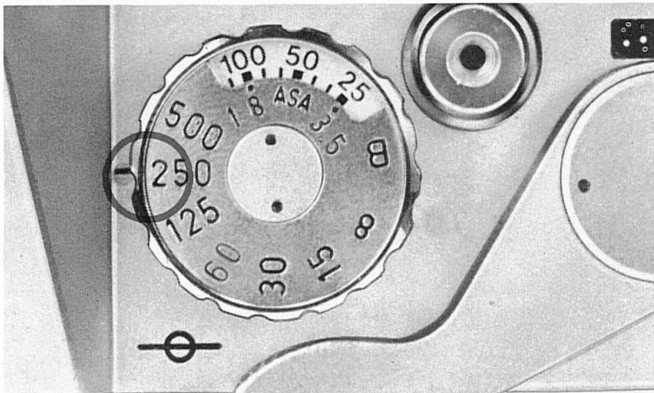


**フィルムの感度を 使用するレンズの明るさの数値に合わせます**

**1** シャッターダイヤル外周の、感度セットリングをつまんで持ちあげて回し、フィルムの感度を、レンズの明るさを示す数値に合わせ、落とし込みます。

(例)フィルムが ASA 100 で、EX 50mm F 1.8の標準レンズの場合は、写真のように 100 を1.8 の数値に合わせます。

●フィルムの感度は、外装箱か説明書に明示されています。



### シャッタースピードを選びます

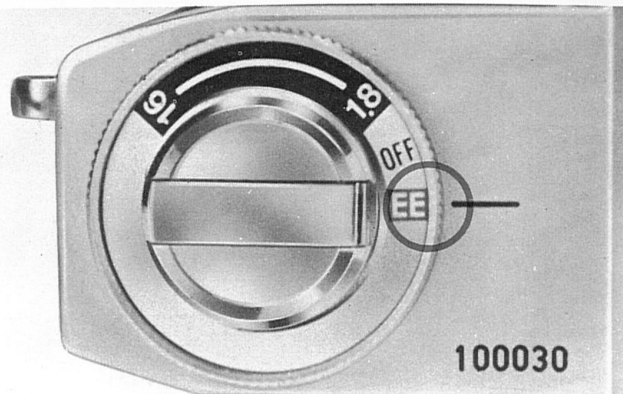
- 1 シャッターダイヤルを回して、数値を指標に合わせます。

●シャッタースピードの目盛は 1/500 秒、1/8 秒などという場合の分母で目盛られています。

●数値は大きくなるに従い、速くなります。したがって、動きの速いものとか晴天下では 1/250 秒とか 1/500 秒が適当です。

●手持ちでブレなく写せる限界は、大体 1/60 秒までです。

それ以下の遅いシャッタースピードの場合には、必ず三脚をご使用ください。



### EE-手動切換えリングを EE にセットしましょう

- 1 EE-手動切換えリングを回して、EE マークを指標に合わせます。

### レンズキャップをはずします

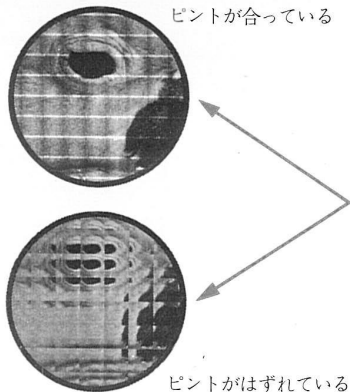
ファインダーを覗きながら ピントを合わせてください

- 1 ファインダーを覗くと、画面の中央に円型のスクリーンが見えます。

これはプリズムスクリーンと呼ばれる距離計で、ピントが正しく合っているときは、写す対象が鮮明に見え、合っていないときは、ぼけて見えます。

- 2 ピントを合わせるには、レンズのフォーカシングリングを回転させます。



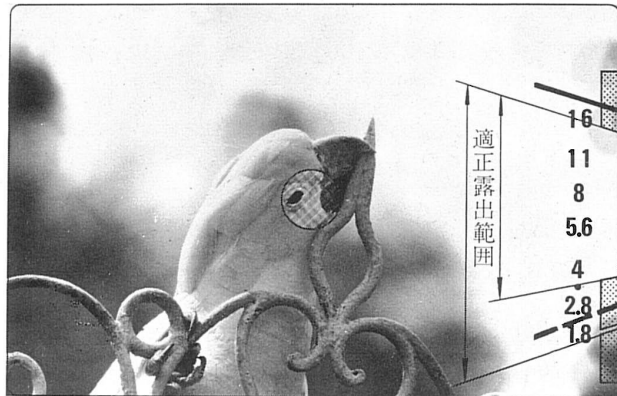


●ファインダーを覗きながら、徐々にフォーカシングリングを回し、ピントを正しく合わせてください。

**写す対象<被写体>をファインダーの中で正しくとらえましょう**

**1** ファインダーの中で見えるものは、すべてそのままフィルムに写ってしまいます。ですから、写す対象の主要部分を画面のどの辺に置くか、または画面に入れたくない部分は、どの辺かをよく考えて画面を決めましょう。

●画面の決め方を、構図の設定といい写真の出来、不出来を大きく左右しますから、シャッターを切る前に、最も適当と感じられる構図に作りあげましょう。



**ファインダー内のメーター指針の位置を確かめてください**

**1** ファインダーのメーター指針は、明るさによって、上下動します。

メーターの指針が、適正露出範囲<絞り値>内にあるときは、つねに正しい露出が自動的に決まります。

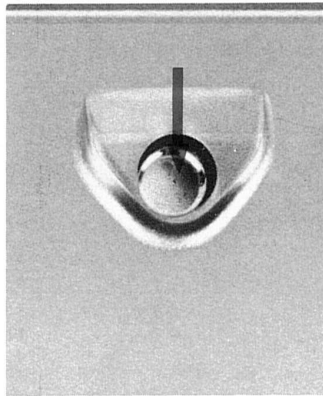
●上方に振り切れ、不適正窓に入ってしまった場合は、被写体が明る過ぎる条件で、正しい露出の得られないことを意味しています。したがって、この場合にはシャッタースピードを速い側へセットし直します。

●逆に下方に落ち、下の不適正窓に入っている場合は、シャッタースピードを遅い方向へ、セットし直します。



## シャッターボタンを押します

- 1 カメラを正しく構えたならば、シャッターボタンをなるべく人差指の腹の部分で押すようにしましょう。
- シャッターを切る瞬間カメラが動き、画面ブレを起すことをカメラブレといいます。正しくカメラを持ち、正しくシャッターボタンを押すことで、このカメラブレから逃れることができます。



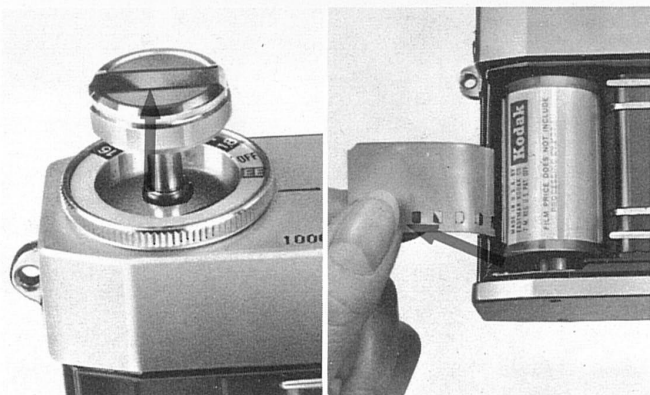
## フィルムの巻戻し

フィルムは大体、枚数分の撮影が終ると巻上げができなくなります。

そこで、カメラの中には、裸のままで巻取られているフィルムがあるわけですから、パトローネの中に巻戻さねばなりません。

- 1 巻戻しボタンを押込みましょう。
- 2 クランクを起し、矢印方向に回し、フィルムをパトローネに戻します。

巻戻し操作は、巻戻しボタンの回転を確かめながらおこないます。巻戻しボタンの回転が止まったならば抵抗



が軽くなる> 直ちに巻戻しを止めます。

**3** 巻戻しクランクを引上げ、さらに強く引き裏蓋を開けます。

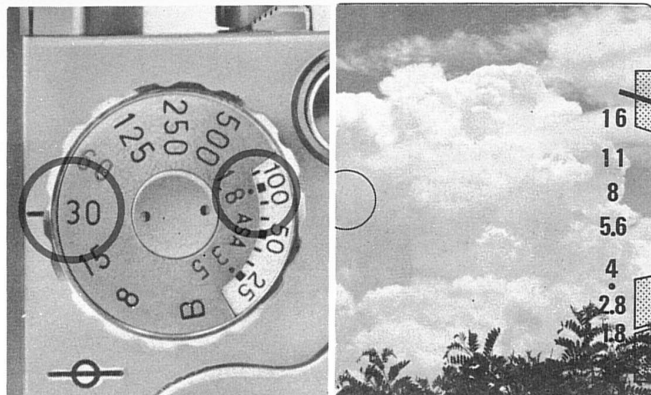
**4** 巻戻し済みのパトローネを取出します。

● 巻戻しボタンは、一旦押込んだならば指を離しても差支えありません。

レバーを巻上げると自動的にボタンは元に戻ります。

### ご注意

● 巻戻しボタンの回転が止まっているにもかかわらず、巻戻しを続行しますと、フィルムは完全にパトローネの中に巻込まれてしまい、取出し後、フィルム口から光が入る恐れがあります。ご注意ください。

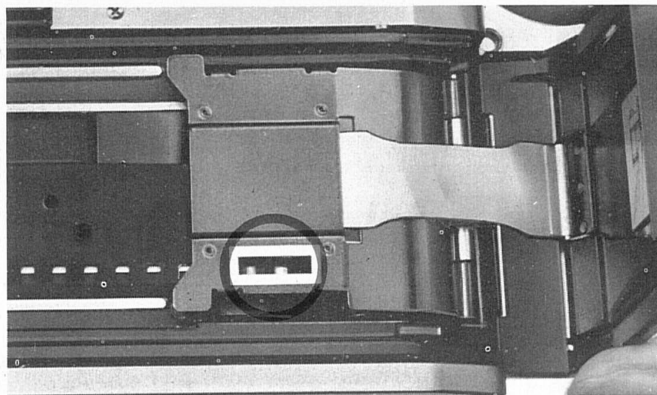


キヤノン EX には、水銀電池のチェッカーは組込まれていませんが、電圧の良否を確かめるには目安として、次の方法があります。

- 1** EE 一手动切換えリングを EE にセットし、
- 2** ASA 感度を 100 に、シャッタースピードを 1/30 秒にセットします。
- 3** ファインダーを覗きながら、カメラを明るい空に向けます。

メーター指針が、F 16 側に振り切れ、数秒経過後、徐々に指針が F 1.8 側に下降してくる場合は、新電池と交換の要があり、振り切れた状態で静止の場合は電圧量が十分であることを意味します。

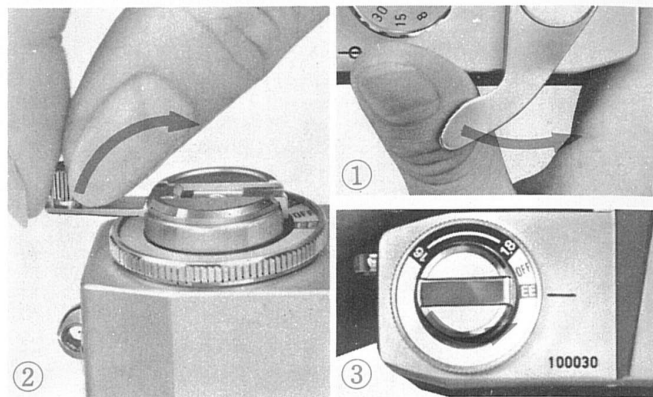
## フィルムの正しいつめ方



35mm カメラのフィルム送りは、どのカメラでも、スプール<巻取り軸>の回転力を利用しておこなうのではなく、スプロケットの歯が正しくフィルムのパーフォレーションに噛み合っ、はじめて送られます。

キヤノン EX の QL 機構の場合にも同様で、QL 軸の上にフィルムを乗せ、パーフォレーションがスプロケットの歯から外れてはフィルムは送られず、空回りしてしまいます。そこで、フィルムを QL 機構に乗せる際、先ず、スプロケットの歯にパーフォレーションが正確にかかっているか、どうかを確かめる必要があります。

- 1 フィルムをつめ、裏蓋を半ば閉じます。  
すると QL カバーがフィルムをおさえ、スプロケ



ット窓から、フィルムのかかり具合を確認できます。

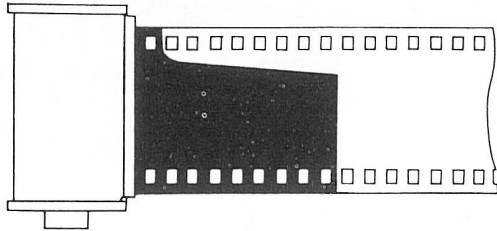
- 2 裏蓋を押しつけて、閉じます。

そして、レバーを巻上げてシャッターを切り、2度ほど同じ操作を繰返したのち、巻戻しクランクを巻戻し方向に軽く回します。抵抗を感じたならば、直ちに止め、

- 3 再びレバーを巻上げてみましょう。

巻上げ操作中、巻戻しクランクが直ちに逆回転をはじめます。

逆回転は正しくフィルムが詰められたことを意味します。もしそうでない場合は、フィルムを一旦巻戻して詰め直さなければなりません。

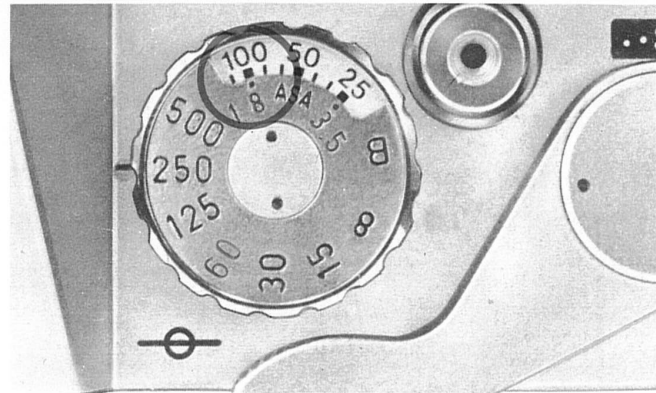


**ご注意**

- フィルムの出し入れは直射日光下を避け、日陰でおこなってください。
- もし日陰のない場合は、身体の内側でおこなってください。
- 暗室装填用の長尺フィルムを切ってご使用の場合は、リーダー部の先を、必ず巻取り方向にカーリング〈巻ぐせ〉をつけ、上図のように切断してください。

**● フィルム感度目盛**

ASA 25 ・ ・ 50 ・ ・ 100 ・ ・ 200 ・ ・ 400 ・ ・ 800  
 (32)(40) (64)(80) (125)(160) (250)(320) (500)(640)

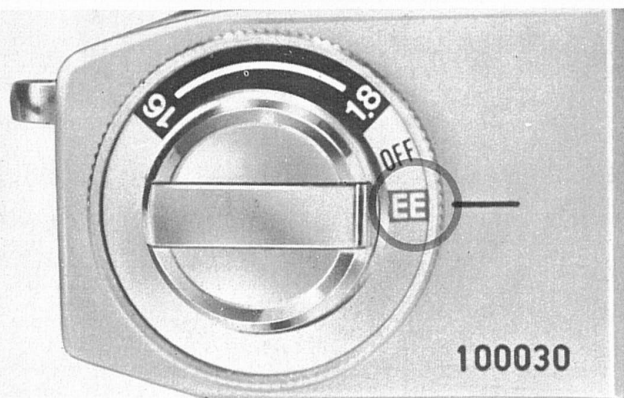


フィルム感度は、フィルムをつめ終ったならば、すぐにセットしましょう。

これを忘れてしまいますと、EE機構を正しく作動させることが不可能で、適正露出は得られなくなります。フィルムは感度の数値が大きくなるほど、光に速く感じ、小さくなるにしたがい、にぶくなります。キヤノンEXは、市販されているフィルムのすべてが使える感度セットの機構を備えています。

ですから使用フィルムの感度を確かめ、使用するレンズのFナンバー〈最大口径比〉に合わせましょう。

## EE 撮影と手動絞り撮影

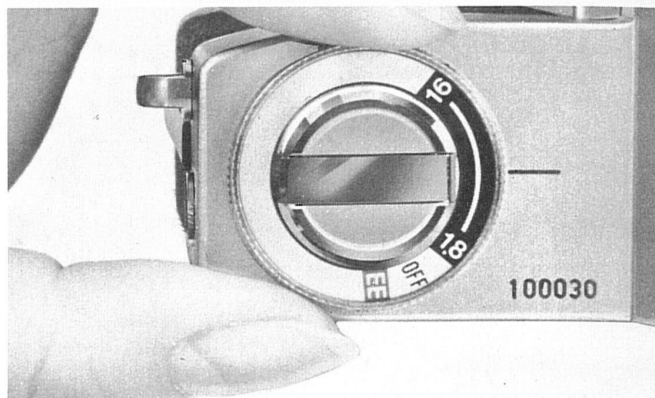


キャノン EX は、レンズを通る光を直接測る TTL 式の EE 機構を備えています。

しかも画面の中央部を重点的に、かつ余分な天空光を自然に遮断する優れた測光性能をもち、画面の階調は被写体に忠実です。

したがって通常の場合には、露出に対する操作を一切必要としない EE 撮影をおすすめします。

● EE 撮影の手順は、6 頁から 8 頁までを参照してください。

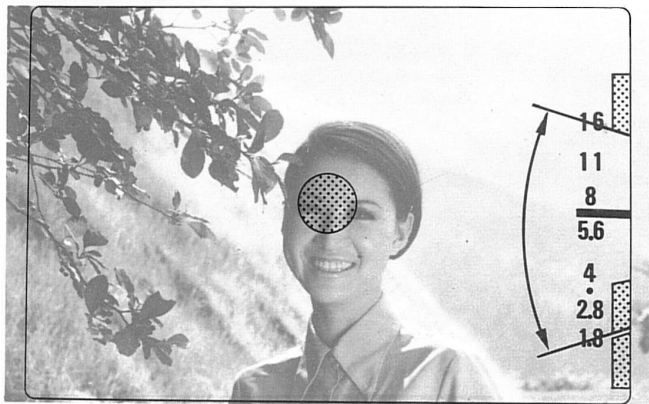


撮影意図によって、任意の絞り値を選んで撮影したいとか、B<バルブ>露出を利用して、長時間露出をおこなう場合には、EE を解除する必要があります。

- 1 EE—手動切換えリングを、手動絞り位置に回します。
- 2 EE 回路が切れ、ファインダーを覗きながら、切換えリングを 16 側に回します。

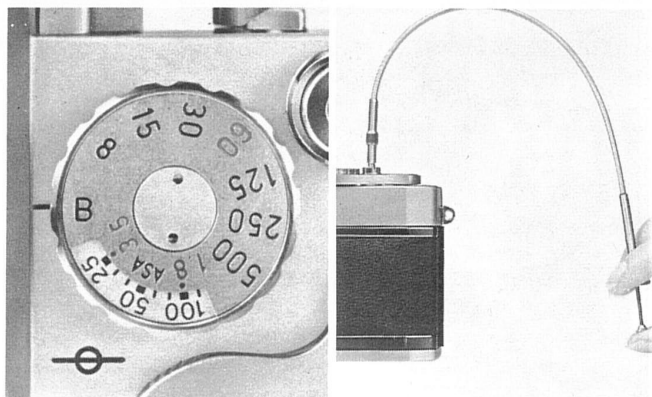
メーターの指針が動き、絞り値を指しますから任意のところで止めれば、その絞り値での手動絞り撮影がおこなえます。

● 手動絞り撮影の場合の絞りもつねに開放で、撮影時のみ絞られる方式です。



したがってファインダー内で、任意の絞りを決めたときにも、ファインダーの明るさは変化しません。

●手動絞りは、一般的な手動絞り撮影のほか、フラッシュ撮影の際、ガイドナンバーによって適正絞りを算出しセットする場合に利用されます。



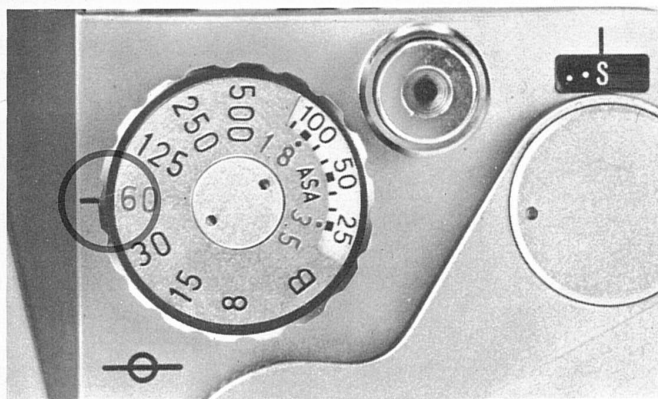
シャッターを開いて、フィルムに光をあたえることを露光または、露出といいます。

シャッターと絞りは、この露光の調節をするもので、シャッターは時間の調節、絞りは光の量をコントロールします。

シャッタースピードは、倍数の速度で目盛りされています。ダイヤル上には、500 250 125………8 Bの表示目盛りがありますが、1/500秒、1/250秒、1/125秒………1/8秒、そしてバルブ(長時間露出用)をそれぞれ意味しています。

●Bはバルブといい、シャッターボタンを押している間

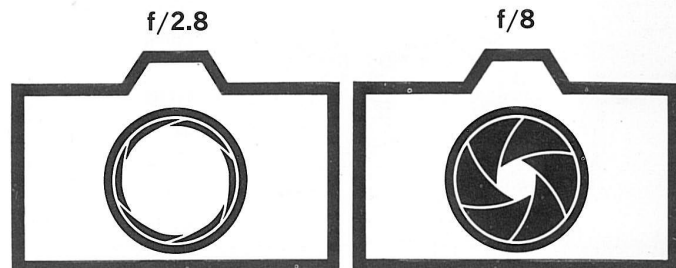
## 絞りと露光量



だけ、シャッター幕が開き、放すと閉じる長時間露出用に用います。

- 60 (1/60秒) が橙色に色別けされているのは、ストロボ (キヤノンスピードライト 102 などのエレクトロニック フラッシュ) 用の同調速度であることを意味します。
- シャッタースピードの変更は、フィルムの巻上げの前後、どちらでも差支えありません。
- シャッタースピード目盛の間は、使用できません。

光の量は 1 : 1/8



絞りはレンズを通過する光の量を調節します。数値が大きくなるほどレンズを通過してフィルム面に達する光量は少なくなり、同時にレンズの被写界深度は増大します。  
< 21 頁被写界深度の項参照 >

絞り値と光量との比を、露光比または露出比といい、通常は1目盛数値が多くなると、光量は1/2に減少します。F/2を1とした場合絞り値と光量は、次のようになります。

絞り値

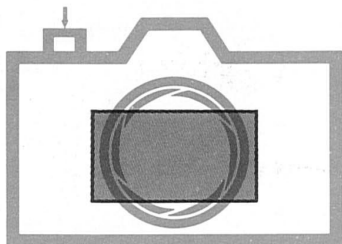
1.8   2   2.8   3.5   4   5.6   8   11   16

露光比

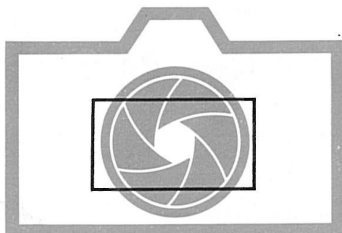
1.25   1   1/2   1/3   1/4   1/8   1/16   1/32   1/64



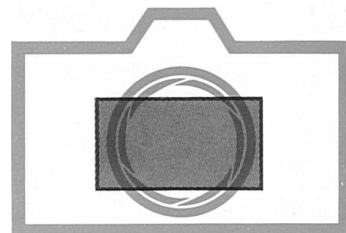
## ミラーと絞りとシャッターの関係



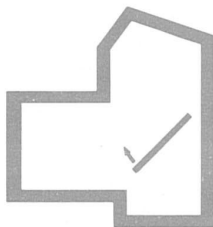
シャッターボタンを押す



シャッタースピードに対応する絞り値まで自動的に絞られる  
手動絞りの場合は予めセットされた絞り値まで絞られる



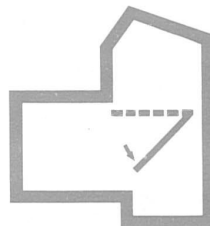
絞りは開放状態に戻る



ミラーが上りはじめる



ミラーが上る



ミラー元の位置に復帰

## EE撮影の連動範囲



EE、手動切換えリングを EE にセットしたときの、撮影可能の範囲をいいます。

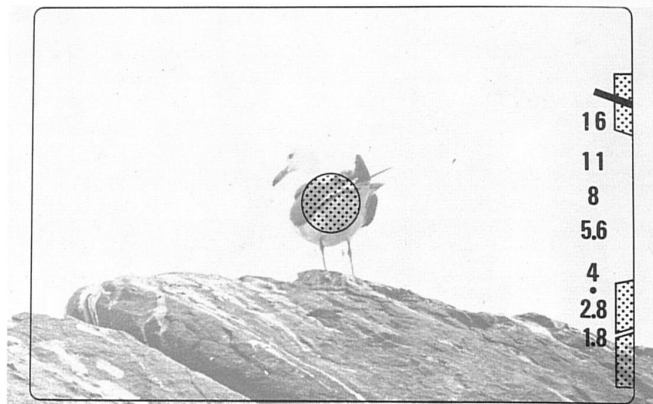
表は、いずれも開放から最少絞りまで、完全に連動する条件で表わしてあります。

●メーター指針が下方に位置し、不適正窓にあるときは、次の条件が〈被写体が極端に暗い〉

〈シャッタースピードが速や過ぎる〉

〈フィルムの感度が低い〉

考えられます。これらの条件を補正しても、なおかつ、不適正窓に指針があるときは、連動範囲外の条件であるといえましょう。



●メーター指針が上方に振り切れ、不適正窓にあるときは、次の条件が〈被写体が極端に明るい〉

〈シャッタースピードが遅過ぎる〉

〈フィルムの感度が高い〉

考えられます。これらの条件を補正してもなお、メーター指針が不適正窓にあるときは同様に連動範囲外の条件であるわけです。

●適正範囲内にメーター指針がある条件で、シャッタースピードを操作して範囲外に条件が変わってしまった場合、メーターの指針は急激に下方に降下します。

●シャッターダイヤルのB目盛使用による長時間露出でEE撮影はできません

## EE 撮影の連動範囲

E X 50mmF1.8

ASA	シャッタースピード												
25							1/8	1/60	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500
32-50						1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	
64-100					1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500		
125-200				1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500			
250-400			1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/125	1/500				
500		1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500					
640-800	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500						

E X 35mmF3.5・E X 95mmF3.5

25							1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500
32-50						1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	
64-100					1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500		
125-200				1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500			
250-400			1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500				
500		1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500					
640-800	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500						

## レンズ交換の仕方



キヤノン EX のレンズ交換は、主光学系の EX 50 mm F 1.8 レンズの後群光学系をカメラ側に残す、前群交換式を採用しています。

交換レンズの種類は、標準レンズのほか、広角 EX 35 mm F 3.5、 ならびに望遠 EX 95mm F3.5 が用意されており、いずれも簡単な操作で交換することができます。

**1** フォーカシングリング前のレンズ枠を、左回しに回して、取外します。

**2** カメラ側に残ったフォーカシングリングの無限遠マーク (∞) が指標位置にあるのを確かめ、交換すべきレンズを右に回し、ねじ込みます。



**3** ねじ込んだレンズの距離リングを回して、距離目盛上の無限遠マークを、フォーカシングリング先端の距離指標 (・) に合わせます。

**4** ピントの調節は、フォーカシングリングを回転させておこないますが、距離目盛は標準レンズの場合と異り、レンズ側に目盛られていますから、フォーカシングリング先端の距離指標を基準に読取ります。

### ご注意

● 取外したレンズは、直ちにレンズキャップならびにグーストキャップ<底蓋>をしてください。レンズ前面および後端にきずや埃りのつくのを防ぎます。



● 交換レンズは、標準レンズと異なるFナンバー〈口径比〉をもちます。

EE 撮影では、予めこの違いを調整しておかないと、正しい露出は得られませんので、レンズ交換と同時にセット直ししておくことをおすすめします。

\* シャッターダイヤル外周のセッティングを持ち上げ、使用するフィルムの感度に、レンズのFナンバーに合わせます。



35mm 広角レンズ



50mm 標準レンズ



95mm 望遠レンズ

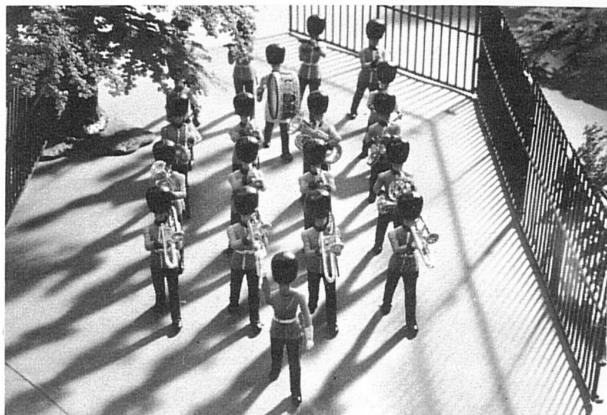
50mm レンズ f/8



### 被写界深度目盛 <EX 50mm F 1.8の場合>

ひとつの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて、絞り数値が目盛られています。被写界深度目盛の使い方は、たとえば3mの距離にある被写体にピントを合わせ、F8の絞りを使うとすれば、距離指標の両側にある8の目盛に対応する距離目盛、すなわち約2.3mと約4.3mとを読みとります。

50mm レンズ f/16



そしてこの間にある被写体が鮮明であることを目盛から知るわけです。

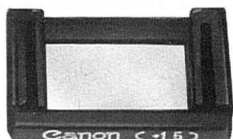
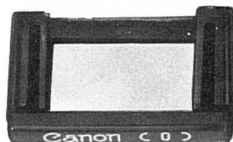
同じく F16 に絞れば約 1.9m から 7.6m まで鮮明に写ることがわかります。

被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

●キヤノン EX では手動絞りをういた場合にも被写界深度の確認はできません。

これは明るい視野を求めたファインダー光学系によるもので直接被写体像をとらえるからです。

## ファインダー



キヤノン EX のファインダー光学系には、被写体のピントを結ばせるマット面がありません。

したがって、ファインダー内で眺められる視野像は、直接光学系を通して見る被写体像なわけです。光学的にはこのような方式を空中像式と呼び、明るさにおいては比類ない性能をもつものです。

●ファインダーには視度補正レンズが用意されており、これを接眼部に取付けると近視や遠視眼の方が眼鏡なしで鮮明な被写体像を見ることができます。

+1.5 0 -2.5 -4(ジオプター)の4種

●接眼部にはアングルファインダー A (旧称ウエストレベルビューワー 2 型) が取付けられますが、この場合の像は左右反対像となって見えます。

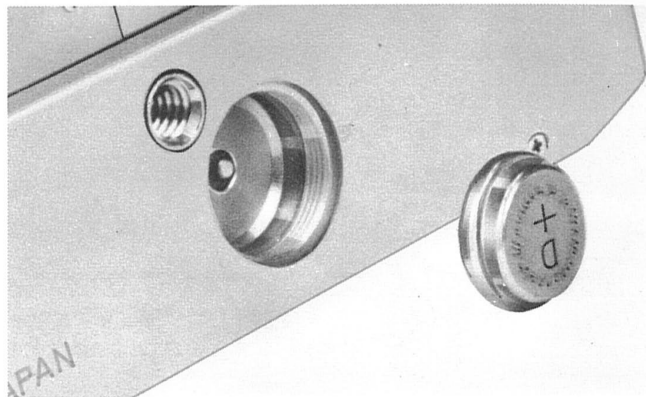
上から覗けますから複写・拡大撮影などに用いると有利です。



フィルム位置マーク

### フィルム位置マーク

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛ってあります。したがって、実測によってピントを合わせる場合には、フィルム位置マークから測って、その距離をレンズの目盛にうつします。



水銀電池は 1.3V の JIS H-D 型を 1 コ用います。  
ナショナル・H-D

米国 Mallory・RM625R, Eveready・E625N,  
GE・No625 いずれかをご使用ください。

- 水銀電池の耐用年数は約 1 カ年です。使用、不使用にかかわらず 1 年経過後は新電池と交換してください。
- 長期間使用しないときは、カメラから水銀電池を取外して、乾燥した場所に保管しておいてください。
- 撮影後は、EE 一手動切換えリングを OFF にセットしておくことをおすすめします。



# フラッシュ撮影

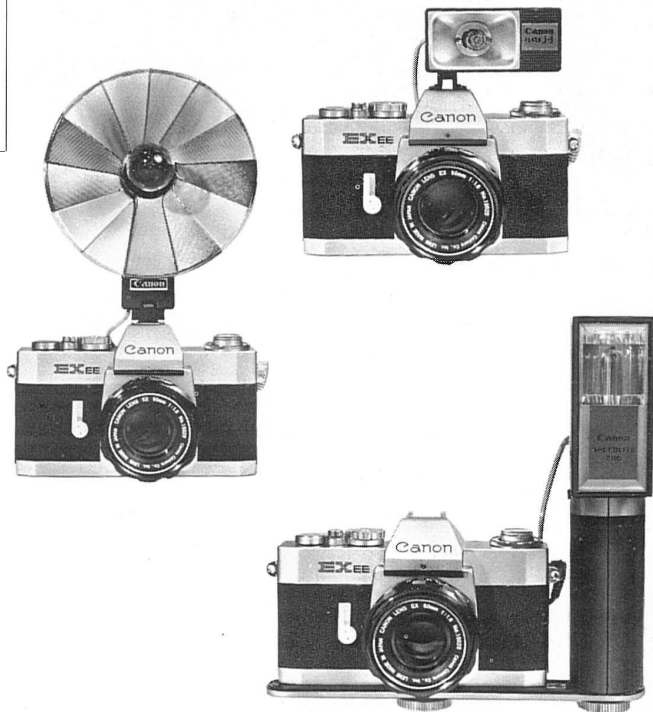
シャッター スピード		バルブ							
		B	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500
FP	級	○	○	○	×	×	×	×	×
M	級	○	○	○	×	×	×	×	×
MF	級	○	○	○	×	×	×	×	×
スピードライト		○	○	○	○	○	×	×	×

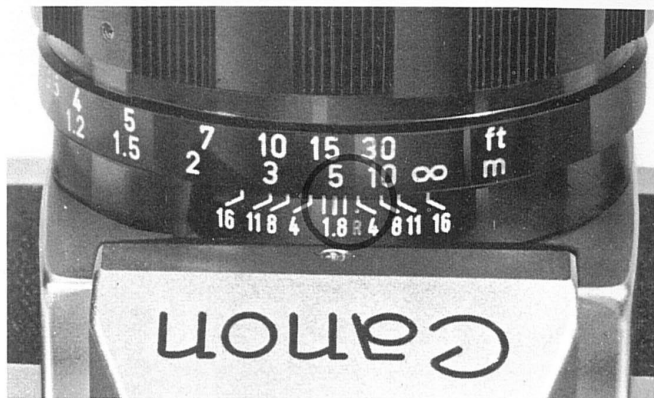
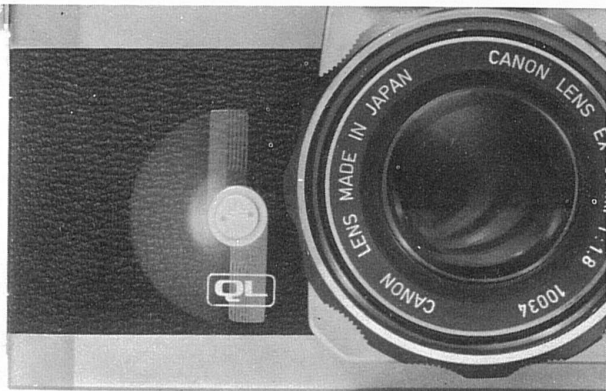
×の部分は使用できません。

キヤノン EX のフラッシュ撮影は、スピードライト〈エレクトロニック フラッシュ〉またはバルブのガイドナンバーによって、シャッタースピードに対応する適正絞り値を求め、手動絞りでおこないます。

カメラのシンクロソケットにフラッシュユニットまたはスピードライトのコードを接続して、上表の各シャッタースピードで同調撮影ができます。

- x印の部分は使用できません。
- フラッシュ撮影の場合もレンズフードは有効です。
- X 接点のシャッタースピードは 1/60 秒に相当します。
- シンクロソケットは JIS-B型です。





シャッターを巻上げます。

セルフタイマーレバーを矢印方向に回し、シャッターボタンを押してください。

- 約 10 秒後にシャッターが作動します。
- セルフタイマーレバーは必ず一枚に巻上げてください。
- シャッターの巻上げを忘れ、セルフタイマーのみを巻上げてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーだけが作動して、シャッターが切れませんからご注意ください。

**赤外指標 R (赤外マーク)** (EX 50mm F 1.8 の場合)

赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれますから修正しなければなりません。

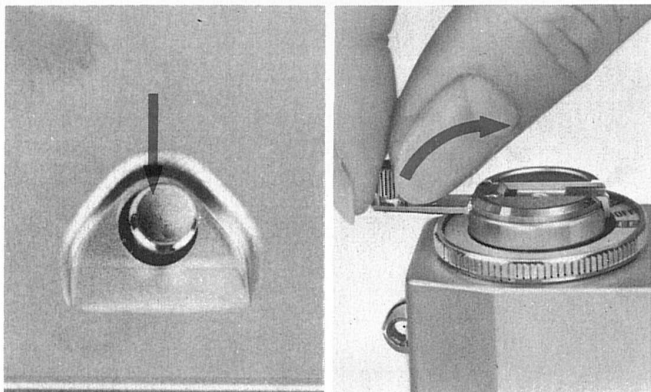
まず普通にピントを合わせます。その距離目盛を赤外指標 R に合わせます。

たとえば、ピントを合わせて距離目盛が 10m とすると、この 10 の目盛を R の位置までずらせばよいわけです。

●赤外指標

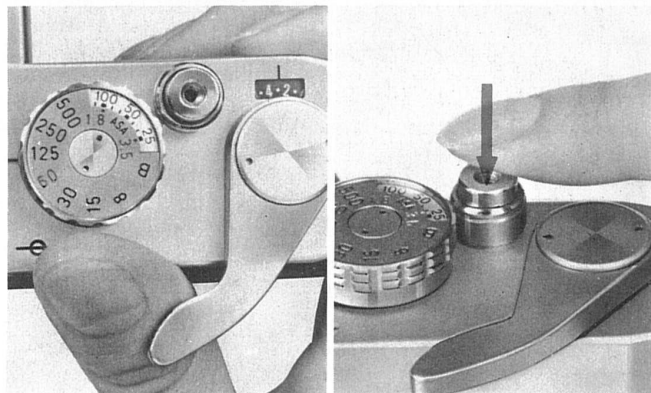
R の位置は 800 $\mu$ m 程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター (たとえばコダック IR 135 フィルムとラッテン 87 フィルター) を用いる場合を標準にして目盛ってあります。

## 二重露出の仕方



キヤノン EX は通常の取扱いでは二重露出防止になっていますが、必要に応じてつぎのようにすれば二重露出撮影ができます。

- 1 第1回目の露出が終わったら、巻戻しボタンを押します。
- 2 巻戻しボタンの指標を見ながら、巻戻しクラックでフィルムを巻戻し、
- 3 指標が3/4回転したならば巻戻しを止めます。
- 4 ついで巻戻しクラックを軽くおさえたまま、レバーの巻上げを行い、巻戻しクラックに抵抗を感じたならば一旦両方の手をはなします。



- 5 それから普通に巻上げをします。

以上の操作を繰り返すと同一フィルム面上に何回でも露出することができます。ただしフィルムカウンターは巻上げごとに進みます。

- 巻戻しのさい巻戻しボタンが3/4回転を越えないことが大切です。

## キヤノンフィルターのおすすめ

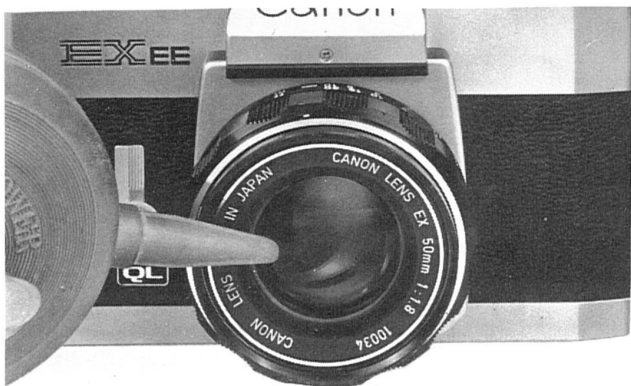
種 類	フ ィ ル タ ー 効 果
UV (SL 39・3C) 黒白, カラー共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紫外線だけを吸収し, 各色光には無影響です。海浜, 高山などの紫外線の多い所では特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。</li> </ul>
Y1 (SY 44・2C) } Y3 (SY 50・2C) } 黒白用 G1 (MG 55C) } O1 (SO 56・2C) }	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒白フィルム利用して, 写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり, 青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。</li> <li>・赤が極端に白くなるのを防ぎ, 空や顔を適当な明るさの調子にし, 新緑などの明るさもそのまま表現します。</li> <li>・青色はかなり暗く, 黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。</li> </ul>
R1 (SR 60・2C) 黒白, 赤外共用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コントラストを強調し, 場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。</li> </ul>
スカイライト } ND4 ND8 } 黒白, カラー共用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青空や木陰の色を自然に近づける作用をします。</li> <li>・ND4は1/4, ND8は1/8に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。</li> </ul>
カラーコンバージョンA (12相当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タングステンタイプフィルムの転換用。</li> </ul>
カラーコンバージョンB (12相当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイライトタイプフィルムの転換用。</li> </ul>
カラーコンバージョンA4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曇天用。</li> </ul>
カラーコンバージョンB4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝夕用。</li> </ul>
カラーコンバージョンA8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルタイプフィルムの曇天用。</li> </ul>
カラーコンバージョンB8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工光フラッシュ用。</li> </ul>

48 mm (EX 50mm F1.8, EX 35mm F 3.5) 用 62mm (EX 95 mm F 3.5) 用ねじこみフィルターが各種用意されており, 黒白フィルム, カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。

\* 62mm は UV, SKY, Y3, R1, CCA12, CCB12, ND4, ND8 の 8種類です。

キヤノン EX は, TTL 方式ですから, 露出倍数の補正は全く必要ありません。撮影効果を, より高めるキヤノンフィルターを, ぜひお備えください。

## カメラの保存と手入れ



**カメラの保存：**カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまいこんで放置しておくと、シミや錆を生ずることがあります。むしろ、しばしば使用して外気に触れさせる方がよいのです。

保存の場合は、水銀電池をぬき、さらにケースからはずしておいてください。

**カメラの手入れ：**野外で使ったカメラは塵埃がつきやすく、また雨の日や海辺で使ったあとは、気付かなくても水滴や塩分を受けてシミや錆を生じたり、レンズのヤケや腐蝕をおこします。そのようなときには柔い刷毛で埃を払い、乾いた柔い布で丁寧に拭いてください。

レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのブロワーで吹飛ばすか、柔い刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。

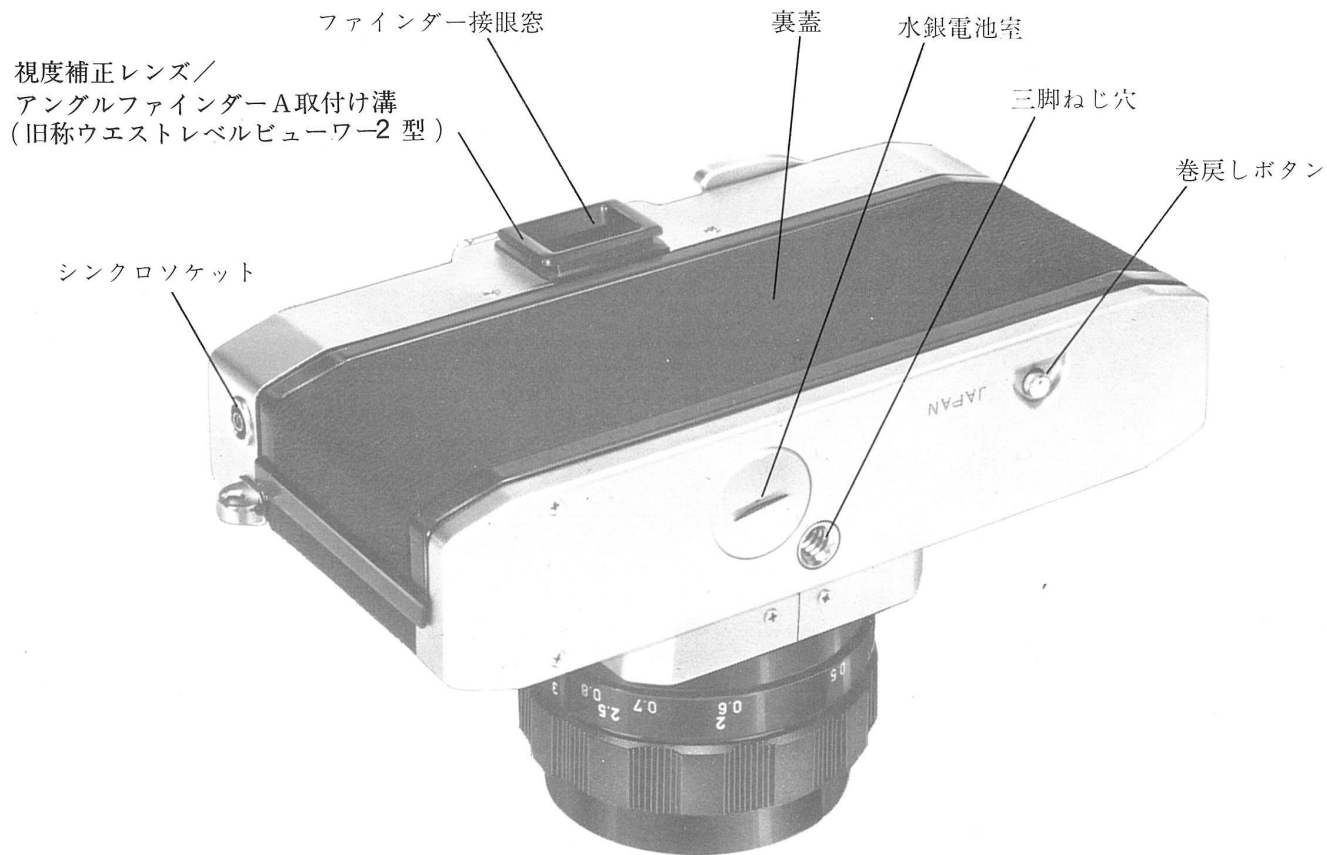
やむをえないときは洗いさらした柔い清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアアルコール（エーテルを少量ませればなお可）をつけ、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くとかえってキズを付けますから注意が大切です。

カメラを海中に落したときは、ほとんど修理不可能になります。この場合はカメラ材料店もしくは弊社サービスステーションにご相談ください。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申上げることができます。カメラやレンズの番号はいつでもわかるような心づかいをおすすめします。

極寒地では、カメラを撮影時以外、直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにすみます。撮影に取出す場合、除々に外気に触れさせないと水分の凝結でレンズが曇り、撮影できないことがあります。 28

# 各 部 名 称



## アクセサリー

キャノン EX の撮影を、より広範にするアクセサリーを  
ご活用ください。

### ●交換レンズ

広角 EX 35mm F3.5 (フード・ケース付) 8,000円

望遠 EX 95mm F3.5 (フード・ケース付) 11,000円

### ●アクセサリー

フィルター 48mm 黒白用 各 900円

カラー用 各 900円

62mm 黒白用 Y3,RI 各1,700円

UV,SKY

ND4,ND8 各1,800円

カラー用 各1,800円

48mm クローズアップレンズ 240,450 各1,800円

キャノンレリーズ28・250円, 30・550円, 50・800円

フラッシュクイント 2,950円

フラッシュ J-2 1,050円

〃 J-3 1,050円

〃 V-3 3,500円

スピードライト 102 (一式) 7,400円

〃 200 (一式) 15,000円

アングルファインダーA 3,900円

(旧称ウエストレベルビューワー2型)

視度補正レンズ 各 450円

ハンディスタンドF (一式) 4,900円

複写装置 3F (一式) 13,150円

カメラホルダーR 4-2 2,000円



# キヤノン株式会社

## キヤノンカメラ販売株式会社

東京都中央区銀座5-9-9 〒104 ☎(03) 572-4251

東京営業所・(105) 東京都港区芝公園11-6-2 (03) 432-8111  
" 横浜分室・(231) 横浜市中区弁天通り2-26 (045) 201-2176  
銀座サービスステーション・(104) 東京都中央区銀座5-9-9(吹原ビル1階) (03) 572-4251  
横浜サービスステーション・(231) 横浜市中区桜木町1-1(ゴールデンセンタービル階) (045) 201-7348  
大阪営業所・(541) 大阪市東区瓦町5-39(大阪化繊会館3階) (06) 202-6761  
大阪サービスステーション・(530) 大阪市北区梅田2(第一生命ビル2階) (06) 341-9335

**営業所・サービスステーション**

札幌・(060) 札幌市北三條西4-1(第一生命ビル4階) (0122) 23-1313  
仙台・(980) 仙台市一番町3丁目1番1号(富士ビル8階) (0222) 22-1571  
新潟・(950) 新潟市東大通1-23(マルタケビル7階) (0252) 46-0131~3  
静岡・(420) 静岡市鷹匠町2-3-6(静米会館1階) (0542) 55-2241  
名古屋・(450) 名古屋市中村区堀内町4-1(毎日会館2階) (052) 581-3811  
広島・(730) 広島市幟町14-11 (0822) 21-4615~6  
福岡・(812) 福岡市博多駅前4-20-23(セントラルビル1階) (092) 41-4172